

8月



新川遊歩道

<http://twinkle77.exblog.jp/22914590/> より引用

あの日のあの川 リレー日記 ～第31話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第31話主人公 花島綺一

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 3年 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：千葉県 新川)

「長い長い遊歩道」

いつのこと？：小中学生時代

どこの川？：新川

私が一番身近に感じ、そして思い出深いものとして挙げられるのは「新川」という川です。まずは簡単にこの新川のことについて述べたいと思います。調べてみますと、この新川という名称を持つ川は日本各地に多く存在しているらしく、命名のし易さから過去に新しく川が出来るときに同名の川が増えた、という経緯があるそうです。私が挙げる新川とは、かの印旛沼側の掘割工事により開削された疏水路部分を指します。同時に東京湾側の自然河川である「花見川」と合わせて「印旛放水路」を現在形成しています。

私の実家が高台に位置していることもあり数分歩けばこの新川を一望できること、また大学への通学中に最寄り駅まで行くのにすぐ傍を通ること、日常的に愛犬の散歩で新川の遊歩道を利用することがあるため私にとって今でも日常的になじみ深い川でもあるのです。この川をゆっくり散歩する時にはいつもこの川で過ごした思い出が脳裏に浮かび上がってきます。

上述したタイトルにもある通りこの新川はその堤を利用した全長 19km の遊歩道をもっておりサイクリングロードやジョギングコースとして地元住民に親しまれてきました。思い返してみると、私が小学生であった時分にはマラソン大会で遊歩道もコースの一部となっており川に沿って走ったこと、生活科の授業の一環として新川の用水路での動物や植物の観察（より具体的にはザリガニ釣りやヨモギ摘みや草笛体験など）を行った

こと、学外学習としての遠足に際し半日かけて新川の遊歩道を大名行列が如く練り歩いたこと、新川の近くに住んでいらっしゃる農家の方の協力を仰いでの田植えをしたことなど様々な学校行事で直接的・間接的を問わずこの川と触れ合う機会は多くありました。また学校を通した行事以外でも、休日には私もサイクリングロードとして遊歩道に沿って長距離を自転車で巡ることや地域の共同体単位で新川の環境改善の一助とするためにゴミ拾いを行ったこと、そして季節ごとの市を挙げての行事、例えば夏祭りではこの遊歩道に沿って長い屋台が例年設置されていたことを今でも鮮明に覚えています。小学校を卒業した後、私は受験をしなかったので地元の中学校にそのまま入学することになりました。この中学生の時分に関しても地理的に離れていないこともありましたが新川と接する機会は小学生時代と変わらず、学校の活動を通して頻繁にあったのです。

高校時代には、進学先が柏市の高校であったこともあり新川と関わる機会そのものも減ってしまいましたし、昔のように学校を通してもしくは個人でアウトドアな活動を新川付近ですることともなくなってしまいました。大学3年次となり、白川先生の授業やゼミに入り「川」について学んだり触れ合う機会がまた増えるようになったこと、そしてこの「あの日あの川リレー日記」を執筆させていただく機会を得たことは私自身の思い出や新川について振り返る良い契機となったと感じています。新川ひとつ挙げるだけで普段意識していなかった思い出が喚起される。つまり新川は私にとっての一種のかけがえのない記憶装置でもあるのだということも実感することができました。

こうして数々の思い出を振り返ってみると、一つの川と深く接することができる小中学生時代というものはなかなか無いのではないかと思いますし、いつか私が年齢を重ねてこの新川の流れる地元に戻ってきた時、記憶装置たる新川に沿って長い長い遊歩道を歩くことで私はまた、自らの少年時代を思い起こすのだろうと予感しています。

図1：八千代市の簡略図、新川の地理的位置



作成：ジオテック株式会社

http://www.jiban.co.jp/tips/kihon/ground/municipality/chiba/yachiyo/P12_yachiyo.htm より引用

図2：八千代市の千葉県における位置



<https://ja.wikipedia.org/wiki/> より引用

(次は岸田まりなさんにバトンを託します)